

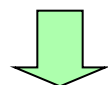
盛岡市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 20年7月～25年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 盛岡城の城下町として発展。北東北の交流拠点都市。
- 郊外の盛南地区において大規模区画整理を実施。
→大型ショッピングセンター、文教施設が多数立地。
- 盛岡市は、平成16・17年度「住みやすさ指数日本一」。
(「くらしと環境に関する世論調査(時事通信社)」より)

空気や海や川の水のきれいさ	1位
子どもの遊び場の安全性／美しいまち並みや伝統的な行事	2位
ごみ、下水道などの環境衛生のよさ 交流の場となる公民館などの利用のしやすさ	3位
公共交通の利用のしやすさ	平均以下

→人口：市全体は横ばい
中心市街地は民間のマンション建設により増加



- 歩行者・自転車通行量の減少 (8地点：平日・休日合計の平均)
H15：82,817人 → H19：53,503人(△35.4%)

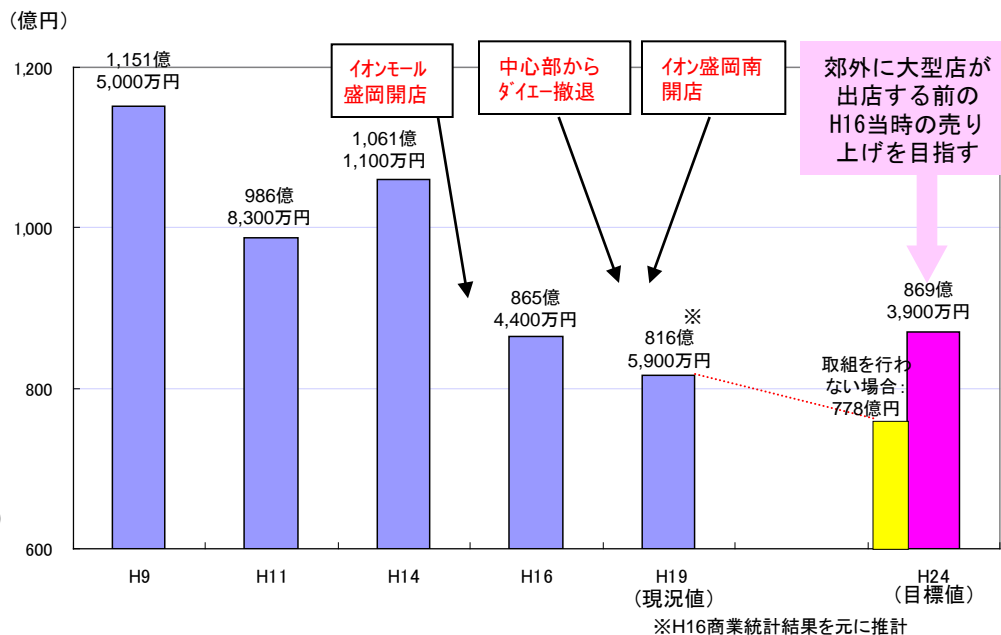
- 商業機能の衰退
年間小売販売額 H9：1151.5億円 → H19：816.6億円(△29.1%)

- 観光入込客数：近年は340万人台で推移。H19はNHK朝ドラ・JRキャンペーンにより、365万人に増加。

【目標】

目標	指標	現況値 (H19FY)	目標値 (H24FY)
賑わいあふれる中心市街地	小売年間販売額	816億5,900万円	869億3,900万円
	歩行者・自転車通行量	50,260人	51,000人
訪れたい中心市街地	観光客入込数	365万人	372万人

【小売年間販売額の動向と数値目標】



バスセンター周辺地区再整備事業をはじめとする商業・都市機能・公共交通の強化や、宮沢賢治・石川啄木ゆかりの観光・地域資源等の郷土の誇りに基づいた地域コミュニティの活動を活性化することにより、市民や観光客でにぎわうまちとして再生する。

盛岡市中心市街地活性化基本計画の事業概要

賑わいあふれる中心市街地① 商業・都市機能の向上

- 老朽化した百貨店(7階建)を容積率未消化分を使い、百貨店(B1~4F)、ファミリー層向け分譲マンション(5~21F)にリニューアル。
- 再開発により、商業施設、立体駐車場を整備し、周辺商店街の駐車場不足を解消。
- 再開発により、マンション、店舗、コミュニティラザ等を整備。隣接する介護事業者と連携し、ヘルスケアサービスを提供。

○専門相談員が各個店を継続的に循環し、空き店舗情報の収集や情報提供、個店の魅力アップ等の個別事業を実施。

○中心市街地の各所で様々な市を開催。



材木町市
(4月~11月毎週土曜日)



北の民謡市場
(毎水曜日・金曜日)

○商店街などで様々なイベントを実施し、賑わい創出を図る。



商店街でのイベント(キッズマート)

○バス本数の増加に対応できていない、老朽化したバスセンターを、周辺敷地との共同化により、バスターミナルの機能を強化するだけでなく、商業施設、福祉施設、共同住宅等からなる複合施設としてリニューアル。



現状のバスセンター



4階以上	ケアマンション、共同住宅
3階	福祉施設等
2階	商業施設等
1階	バスセンター、交流施設、生活利便施設等

訪れたいくなる中心市街地 観光・地域資源等の活用による賑わい創出

○中心市街地には映画館が多数集積していることから、映画館通りを中心としたエリアで市民・商店街・映画事業者・商工団体・行政らの連携により、映画祭や「映画の街盛岡」推進事業等を実施。



○中心市街地に多数ある歴史・観光・自然等の地域資源を活用し、市民やボランティア・NPO等が様々なイベントや祭り等を実施し、交流促進を図る。

○旧岩手県立図書館を市民や観光客、修学旅行生らが楽しめる歴史文化施設として再生。



○南部桐下駄や染物・こけし・駄菓子製造販売などの地場産品店や工房を「小さな博物館」として指定し、観光客増と地場産業の活性化を図る。

○まちなか循環バス(・・・線部分)の運行やオムニバスタウン事業の実施等により公共交通の利便性の向上を図る。

○これまで鉄道で分断されていた盛岡駅の東側と西側を連絡通路で結ぶことにより、回遊性の向上を図る。



まちなか循環バス

賑わいあふれる中心市街地② 公共交通の活性化

